

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

秋田市立土崎南小学校

1 本年度の学校評価をふりかえて

学校教育目標「なかよく 学び合い 挑戦する 子どもの育成」の具現化に向けて、「子どもの心と学びをつなぐ教育活動の充実」と「保護者と地域との信頼関係を基盤とした開かれた学校づくり」を経営方針として取り組んだ。活発な P T A 活動や地域の見守り活動、体験学習の積極的な受け入れなど、学校の教育活動に理解があり、地域や保護者が一体となって子どもを育てる文化がある。このような恵まれた地域の人・こと・ものを生かし、各教科や領域などで地域を学習材とした特色ある体験活動や価値ある探究活動を行っている。教職員は、「確かな学びをはぐくむ学習活動の充実」、「つながりを生む活動の充実」、「豊かな心と健やかな体をはぐくむ活動の充実」を重点に、互いに学び合い、専門性を高め、研鑽に励んできた。今後も、未来を担う子どもたちが自己肯定感や有用感をもち、よりよい自分を目指し、様々なことに積極的に挑戦していくたくましさをはぐくんでいきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	確かな学びをはぐくむ学習活動の充実	・「分かる」「できる」「楽しい」を実感できるよう、意欲をかき立てる体験活動を組み入れた学習や外部指導者を活用した「本物にふれる活動」を積極的に実施した。多くの授業で、集中して授業に参加し、積極的に発表する児童の姿が見られた。一方で授業中の積極性や意欲が持続せず、繰り返し復習したり、継続的な努力をしたりすることが難しい児童も見られる。 ・重点「基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る指導の充実」については、少人数制による 2 C 3 T（2 クラスに 3 人の教師）の授業や担任と校長・教頭・教務などが協力して複数人で行う「わかとはタイム」の指導、タブレットを活用した個に応じたドリル学習の指導など、単元や児童の実態に合わせて改善に取り組んだ。各種調査などでは若干の改善が見られたが、今後もさらなる改善に取り組む必要性を感じている。	B	・キャリア教育の視点から、学ぶ目的と将来の生活を関連付けて指導し、学習が日常の生活に結びついていることを実感できるようにする。 ・誰でもいつでも「分かる」「できる」「楽しい」を実感できるよう、教室環境や授業のユニバーサルデザイン（焦点化、可視化、共有化）を進める。 ・一人一台端末（タブレット）をより効果的に活用できるよう、校内研修を実施し、更なる授業力向上に努める。 ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るために、少人数制による 2 C 3 T（2 クラスに 3 人の教師）の授業や担任と校長・教頭・教務などが協力して複数人で行う「わかとはタイム」の指導、タブレットを活用した個に応じたドリル学習の指導など、今後も単元や児童の実態に合わせて進めていきたい。	・一つの教室に二人の教員がいることで配慮の必要な子どもに対応できたり、習熟度別に少人数の指導を行うことで、きめ細やかに指導できたりするなど、教員数が増加することで効果があると分かった。 ・今後も、様々な事情を抱える一人一人の子どもにあった指導ができるよう配慮してほしい。そのためには、先生方が元気で余裕があることが必須である。それは、子どもたちの良好な育ちに関係する。先生方の働き方改革もしっかりと進めてほしい。
	つながりを生む活動の充実	・委員会活動では、学校生活の向上のために話し合い活動を充実させるとともに、集会で全校に発信する機会を設定し、子ども主体の活動を大切にしてきた。また、縦割りグループ（異年齢集団）活動では、南小まつり、なかよしフラワー活動や全校清掃などで協働し、感性や実践力をはぐくむ活動を計画的に実践してきた。児童は、思いやりをもって活動し、協力するよさを感じていた。 ・統合を見据え、職員の連絡協議会や土崎南小学校学習発表会予行の参観（土崎小学校 1 ～ 4 年生）を実施するなど、連携を図った。	A	・今後も学級や学校での生活の充実と向上のために子どもが自主的、実践的に活動できるように、発達段階に応じた指導を計画的・意図的に設定する。 ・児童が安心して統合の日を迎えられるように、校外学習や宿泊研修と一緒に実施したり、互いの学校の HP を見たりする機会を設定する。また、職員の連絡協議会を継続し、互いに協力しながら調整を図る。	・土崎小学校との統合への準備が着々と進んでいるようで安心した。共通の課題に取り組むことはよいことである。子ども、職員など人の交流も順調に進んでいてよい。同じ土崎の仲間なので、お互いのよいところを伸ばしていけるようにしてほしい。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	・年 1 0 回の学校生活アンケートや機会をとらえた個人面談でいじめの未然防止や早期発見に努め、常に子ども心に寄り添う生徒指導を心がけた。また、子どもを語る会や打合せなどで、気になる子どもについて情報交換し、共通理解を図った。 ・授業や行事を通して、一人ひとりが自己有用感や充実感を感じられるような場を工夫するとともに、自発的・自主的な活動を推進したり、自己選択の場を意図的に設定したりした。児童の自己有用感は昨年度よりもさらに向上した。	A	・今後も、多様な他者と協働することの大切さを実感できるように、自分の思いや考えを表現したり、互いに認め合う場を大切にす。また、自ら考え、選択、決定し、発表したり、制作したりする体験活動を計画的に設定する。 ・児童主体による絆づくりの場や機会を設定したり、教職員による居場所作りに努め、児童一人ひとりの自己肯定感や自己有用感をはぐくむことができるよう支援する。	・来校したときの児童のあいさつが気持ちよい。学校アンケートにおいて「相手を思いやる心」「進んで挑戦する」について自己評価が高いのは、自分に自信があるからこそのものであり自己肯定感が育っていると考えられる。「いじめ防止の取組の充実」は評価を A にしていただきたい。 ・協調することは、互いの個を認めることから始まり、それぞれの欠点も見方を変えれば長所となるかもしれない。また、命の尊さや他者への思いやりをはぐくむ心を今後も育てていただきたい。
	思いやりのある子どもの育成	・道徳教育目標「互いを認め合い、自己有用感をもつことができる子ども」を目指し、全学年共通して「親切・思いやりの心」を指導の重点として取り組んだ。縦割りグループ活動などでは、上の学年が下の学年を気遣って活動したり、休み時間に下学年の世話をしたり、間違った行動を論じたりする場面が毎日のように見られる。 ・互いを認め合う温かな学級づくりを基盤とし、子どものよさや成長を認め、励ます機会を大切にしてきた。子どもたちは様々な場面で自信をもって自分の考えを発表したり、互いに認め合いながら協力して活動したりすることができた。	A	・自分や他者を理解し、大切にす態度をはぐくむために、子どもの発達段階や実態に合わせて、各教科、学年相互間の関連を図りながら道徳科を計画的、発展的に実施する。また、朝や帰りの会などで、互いの活躍を紹介する場を設定し、子どもの自己有用感を醸成する。 ・アンケートや Q-U 調査などを活用し、子ども一人ひとりの状況や集団の実態を把握し、縦割りグループ活動などで子ども同士のかかわりを意識した集団としての力を高める取組を推進する。	・様々な活動を経験し、子どもたちには思いやりの心が育っていると分かる。 ・思いやりの心は、社会生活を送るうえで最も大切なことと思う。お互いを理解し、認め合う心をさらに育ててほしい。
家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	・授業参観や親子レクリエーション、朝の街頭指導や図書整理など P T A 活動を本格的に再開することができた。また、学習発表会や運動会などの行事も予定通り実施することができた。 ・パトロール隊による交通安全指導や下校時の見守り活動により、地域で子どもたちを見守る体制ができている。臨港警察署と連携を図り、不審者やクマの目撃の情報提供から児童の安全確保のために様々な対策を臨機応変に実施することができた。 ・秋田臨港警察署や土崎消防署と連携を図り、交通安全教室・防災教室・避難訓練などを実施することができた。 ・学校運営協議会や P T A 企画委員会などで教育活動の取組や教職員の働き方改革について共通理解を図った。	A	・伝統的に大切にされてきた運動会での「サバグチ」や「親子レクリエーション」など、保護者が主体となって企画・運営する活動を来年度も協力して実施していきたい。 ・来年度も臨港警察署や近隣の学校と情報を共有しながら、児童の登下校の安全確保を図る。また、パトロール隊の高齢化の問題から、1 年生の下校時のお迎えを登校に慣れるまでの 2 か月間（4 ～ 5 月）と期間を限定して実施したい。 ・広報や H P（ホームページ）で学校の様子を積極的に発信し、地域に開かれた学校づくりに努める。	・地域では 6 5 歳まで働く方が増えている中で日中のパトロールは難しくなってきた。教育委員会で勧めている「ながら見守り」をしたり、できる地域には引き続きお願いしたりしながら、子どもの安全な登下校を守っていきたい。統合を見据えて、パトロール隊の活動についても話し合いの機会をもつてほしい。 ・統合に向けて P T A でも情報交換をしてほしい。 ・今新聞に載っている地域の問題もかみ砕いて説明しながら、町内会などとも連携し、大人も小学校生活に関心をもつことも必要である。
特色ある教育活動	地域とのつながりを生む活動の充実	・土崎駅、土崎図書館、土崎神明社、セリオン、土崎港、点字図書館、土崎みなと歴史伝承館、警察・消防署などの施設、港曳山まつり、地域の商店街など、豊かな地域素材を活用した探究学習を行った。また、港っこ先生によるクラブでの指導を実施した。地域の人・こと・ものへふれることで、子どもたちは、ふるさとのよさを再確認し、愛着を深めている。	A	・ふるさとの自然や文化、人々と直接ふれ合うなど、実感的で体験的、総合的に学ぶ場の充実を図り、そのよさを実感し、感動する心、他人を思いやる心、他と共に生きる豊かな心や態度を育てる。 ・各学年の取組・目的を系統立ててまとめ、成果と課題、外部指導者の情報などを引き継ぎ、改善に努める。 ・ふるさとの歴史や伝統、先覚者の偉業についての理解を深め、ふるさとの課題や展望について進んで考えられるよう、地域の活性化に貢献する活動などを取り入れていく。	・ふるさとを大切にする学習は今後も大切にしていきたいものである。統合しても南小学校と土崎小学校の太鼓は両校とも存続し、交流しながらやっていく予定である。このように、両方の伝統を大事にしながら、上手によいところを活かしていったほしい。 ・子どもたちには、土崎を愛する心をより一層もってほしい。曳山行事など、地域の行事に参加し、平等な中にも上下関係や規律があることを肌で感じてもらえればよいと思う。